



MSD12-0K001

シグネチャーイルミ

取付・取扱要領書

この度はモデリスタシグネチャーイルミをお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本書は本商品の取付け、取り扱いについての要領と注意を記載してあります。
取付け前に必ずお読み頂き、正しい取付け、取り扱いを行なってください。

★本商品は登録後架装を前提としています。

■ 品番・適合車種

品番	適合車種	備考
MSD12-0K001	ハイラックス	—

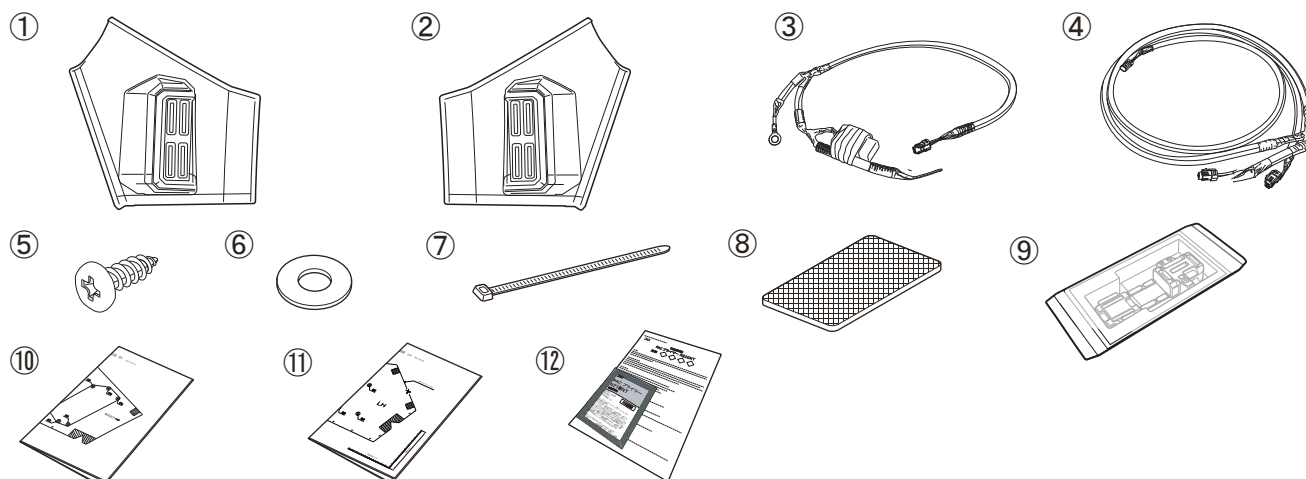
・最新の適合情報はモデリスタカタログサイトをご覧ください。 <http://www.modellista.co.jp/>

■ 構成部品

No.	品名	個数	備考
①	シグネチャーイルミ RH	1	
②	シグネチャーイルミ LH	1	
③	電源ハーネス	1	
④	バンパー側ハーネス	1	
⑤	タッピングスクリュー (M4 × 15 mm)	4	
⑥	ワッシャー (M4)	4	
⑦	結束バンド	19	
⑧	クッションテープ	1	
⑨	防水エレットップ	1	
⑩	型紙 RH	1	
⑪	型紙 LH	1	
⑫	PACプライマー	1	N210NT

※確認・本商品が到着後、すぐに本体に破損がないこと、付属品が全てそろっていることを確認してください。

■ 構成部品表



■取り付け上のご注意（取り付け作業の方へ）

作業を行う前は必ずお読みになり、安全で確実な取り付け作業を行ってください。



警告

この警告に従わず、誤った取り付け・取扱いを行うと生命の危険または、重大な傷害等を負う可能性がある内容について記載しています。



注意

注意事項を守らないで、誤った取り付け・取扱いを行うと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがある事を記載しています。



アドバイス

スピーディに作業していただく上で知っておいていただきたいことを記載しています。

⊖ やってはいけないこと

⓪ 必ず行っていただくこと

⚠ 警告

- ⊖ 本商品への改造・加工、及び適合車種以外への装着は、重大な事故や故障を招くおそれがありますので絶対に行わないでください。
- ⓪ 本商品の取り付け・交換は、該当車両の修理書（トヨタ自動車㈱発行）に従い、本書の注意事項を守り作業を行ってください。
- ⓪ 取り付け作業は規定トルクに従って、確実に締付けてください。締付けが足りないと脱落などにより重大な事故や故障を招くおそれがあります。

⚠ 注意

- ⓪ 本商品を取り付け前に、本体・構成部品がすべて揃っていること、損傷や不具合が無いことを確認してください。取り付け後に発覚した損傷や不具合のクレームには、対応できない場合があります。
- ⓪ 本商品の取り付けは、キズ付き防止のため保護シートの上で取扱いを行ない、同時に取り付け部位を保護材にて養生をした上で作業を行ってください。取り付け作業時のキズ付きや破損に十分に注意してください。
- ⓪ エンジンルーム内、ラジエータキャップ付近に配線を通したり部品を取り付ける際、腕等がラジエータキャップに接触しやすく、上着など着用している場合にラジエータキャップが緩んだことに気づけない場合があります。ラジエータキャップと接触し緩んだ場合、オーバーヒートに繋がる可能性があります。ラジエータキャップに限らず、用品取り付け作業後には作業部位周辺に異常がないかご注意ください。
- ⓪ 本商品の装着により、タイヤとタイヤハウスとの隙間が少なくなる場合があります。洗車やタイヤ交換の際、手指を挟んだりぶつけたりしないよう、ご注意ください。

脱脂作業について（別添の脱脂作業要領も参考にしてください。）

- ⓪ 脱脂作業を行う際は、清潔なウエスを使用して、イソプロピルアルコール（IPA）を使用し、上記以外の溶剤は絶対に使用しないでください。
- ⓪ 脱脂作業にボディーコーティング等の下地処理剤や、パーツクリーナー、ブレーキクリーナーなどの溶剤は絶対に使用しないでください。正しく脱脂が出来ず浮き、剥がれの原因となります。

両面テープについて

- ⓪ 脱脂作業を怠ると両面テープが剥がれるおそれがあります。
- ⓪ 両面テープは一度貼り付けてから剥がれますと、接着力が低下しますので再貼り付けはできません。
- ⓪ 外気温が 15℃未満の場合は両面テープの接着力が著しく低下します。部品または貼り付け面を人肌程度まで加温してください。
- ⓪ 両面テープの圧着はテープの直上を 49N(5kgf) 以上（車両が軽く揺れる程度）で確実に押してください。圧着が足りないと両面テープが剥がれるおそれがあります。
- ⊖ 接着力を促進するため、取り付け後 20 分以内は洗車しないでください。

未塗装品の塗装作業について

- ⓪ 本商品は塗装前に下地処理が必要です、必ずサフェーサー塗装から始めてください。
- ⓪ 本商品に塗装する際は、両面テープを全面マスキングしてください。
- ⓪ 乾燥させる際は製品の変形の無いよう固定してください。又、乾燥温度が高くと変形やひび割れを起こしますので下記温度条件で乾燥させてください。

<温度条件>

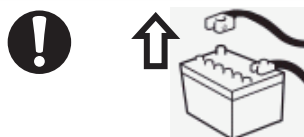
ABS 系：60℃以下、PP,PPE 系：70℃以下

取り付けが終わったら

- ⓪ 商品及び車両に傷が付いていないことを確認してください。
- ⓪ 商品全周に渡り、浮き・剥がれ等、無いことを確認してください。
- ⓪ 商品と車両との干渉が無いことを確認してください。
- ⓪ 作業でバッテリーのマイナス端子を外した場合は、作業終了後にシステム設定・確認を行ってください。
- ⓪ 本取り付けに伴い分解・脱着した部位により、再設定・調整が必要となる場合があります。該当車両の修理書（トヨタ自動車㈱発行）に従い、各部の点検・調整・設定を行ってください。

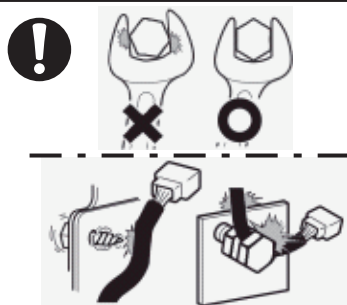
LED ランプ配線取付け上の注意事項

- ❗ ビニールテープをご使用の際は、必ず難熱性の耐熱ビニールテープを使用してください。
推奨品：V9650-0484（耐熱ビニールテープ・灰色）
- ❗ バッテリー復元作業後は、機能部品に初期化や調整が必要な場合があります。
取付け作業後は必ず該当車両の修理書に従い、初期化・調整作業の有無をご確認ください。



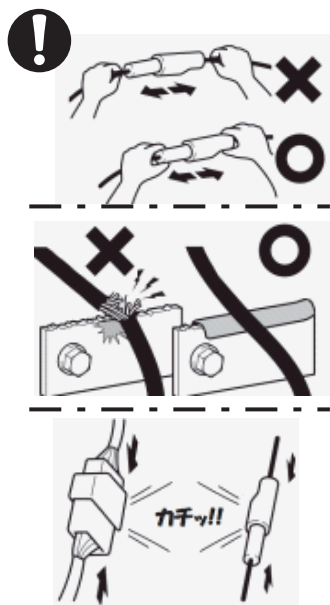
取付ける前に

- ・作業前に、必ずバッテリーの（－）側ケーブルをはずす。



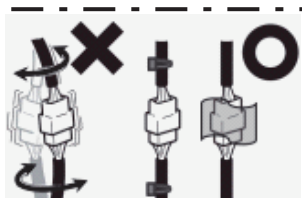
部品を取付ける際は

- ・部品サイズにあった工具を使用する。
- ・部品の裏側に注意して、配線の噛み込みやビスの接触、断線に十分に注意する。



配線の取りまわしは

- ・コネクターは必ず本体を持ってはずし、配線は引っ張らない。
- ・バリ・エッジ部は、保護シート等で保護をする。
- ・コネクターは「カチッ」と、音がするまで確実に接続して、配線は無理なチカラで引っ張らない。



配線のクランプは

- ・結束バンドは配線が動かない程度に締めて、締めすぎない。
- ・結束バンドの余った部分は、エッジにならないようにカットする。
- ・カットした末端が、ほかの配線と接触しないようにする。
- ・コネクターが振動により異音がないように、確実に固定する。

⚠ 注意

- ❗ バッテリー接続中に作業を行う際は、エアバックセンサー等に衝撃を与えないように十分に注意して作業を行ってください。

■ 目次

1. 表紙、品番・適合車種、構成部品、構成部品表 1
2. 取り付け上のご注意（取り付け作業の方へ） 2
3. LED ランプ配線取り付け上の注意事項 3
4. 目次、取り付けに必要な工具・保護具・消耗品、保証について、取り付け構成図 4
5. 準備作業、取付作業 5 ~ 18
6. 取付完了後の点検・注意事項、回路図 19

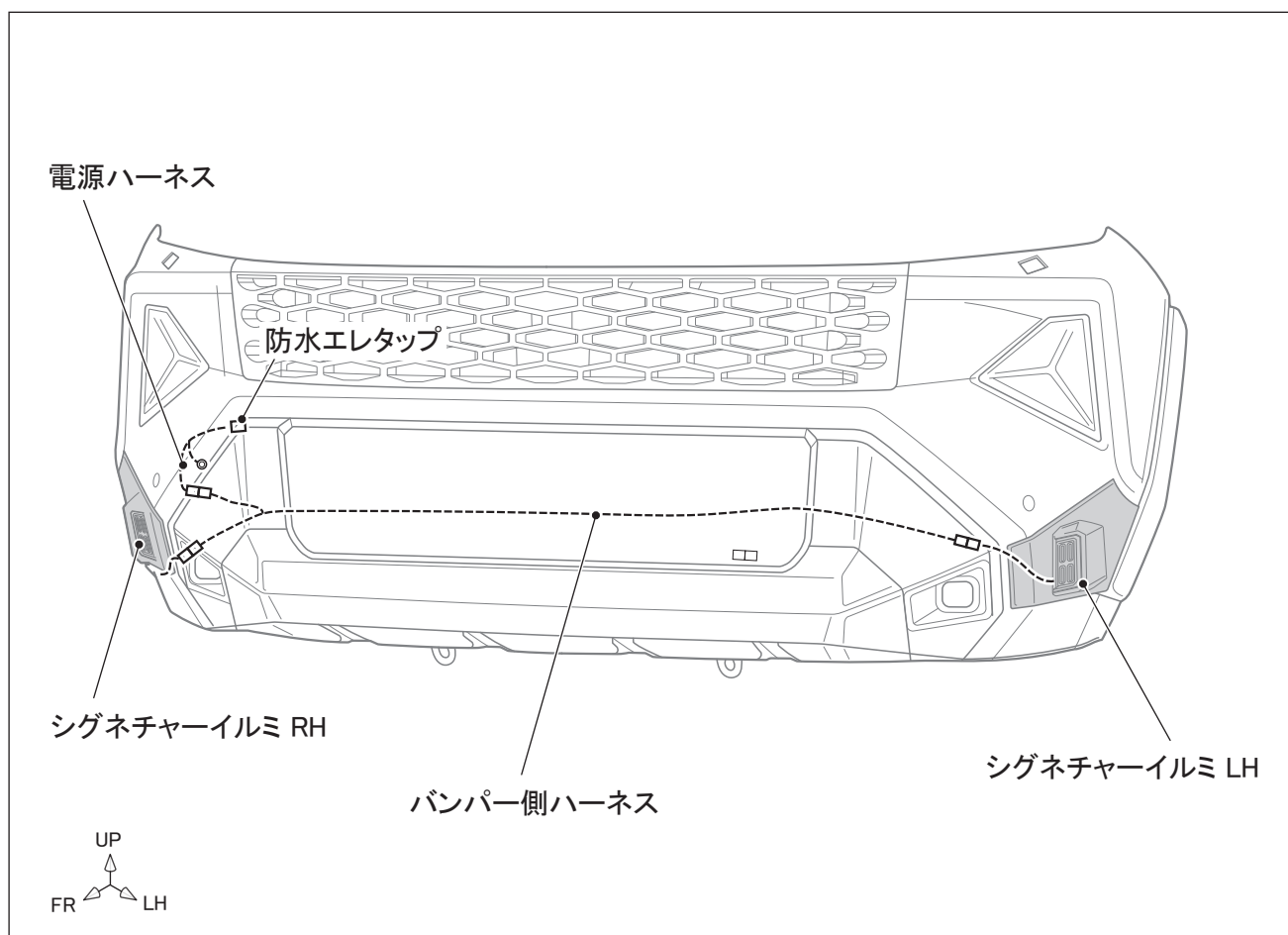
■ 取り付けに必要な工具・保護具・消耗品

- ・ 一般工具・トルクレンチ
- ・ 加工用工具（ニッパー・ハサミ・カッター等）・保護メガネ
- ・ キリ・電動ドリル（刃：3.0 mm / 6.0 mm / 8.0 mm）
- ・ 保護手袋・保護シート・保護テープ・マスキングテープ
- ・ イソプロピルアルコール（IPA）・清潔なウエス

■ 保証について

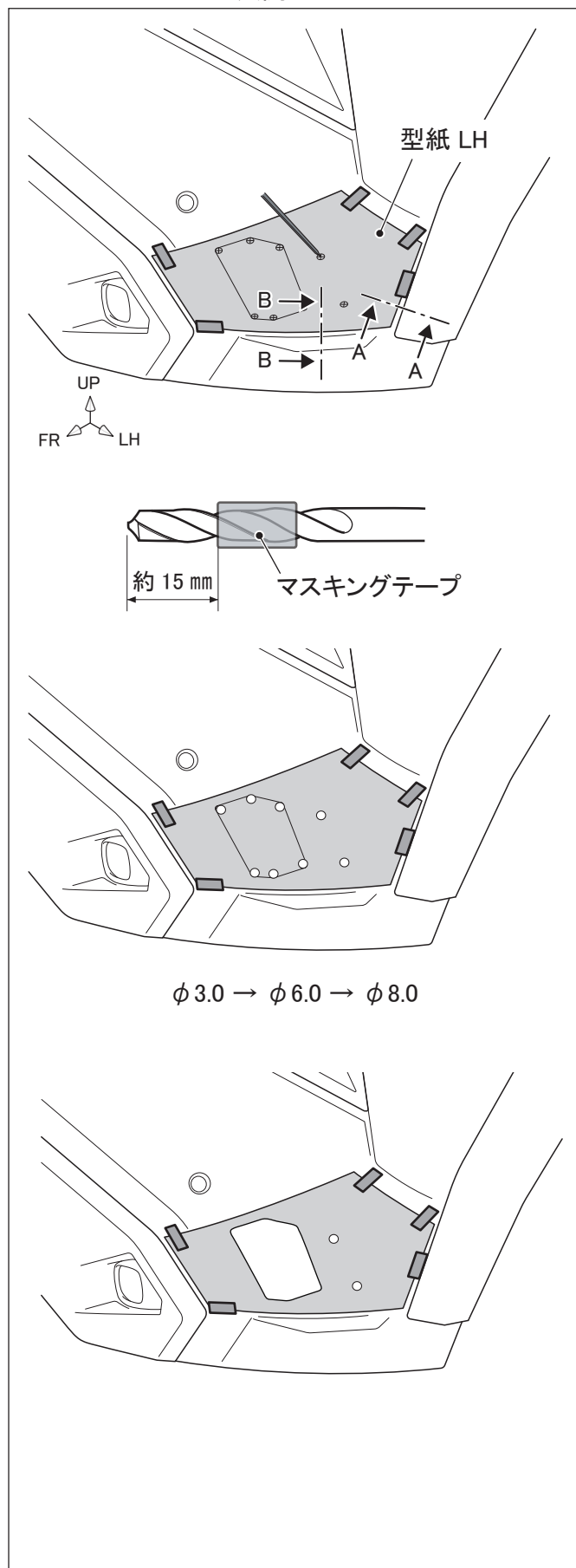
- ・ 本商品の保証を受けられる期間はパーツを車両に装着された日から 1 年間となります。
ただし、その期間内でも走行距離が 20,000Km までとなります。
- ※保証の詳細は MODELLISTA 公式サイト <<https://www.modellista.co.jp/>>
「保証について」をご覧ください。

■ 取り付け構成図

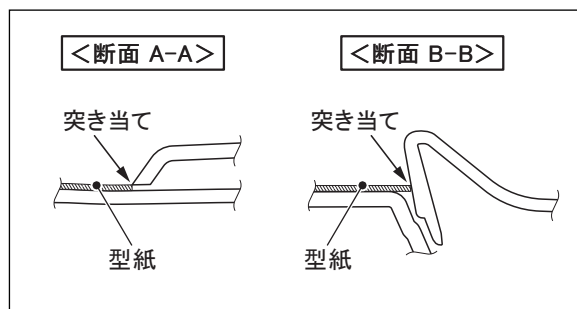


■ 準備作業

1. フロントバンパーの穴開け



- (1) 型紙を外形線に沿って切り取ります。
- (2)(1) でカットした型紙を左図を参考に車両フロントバンパーに合わせマスキングテープで固定します。



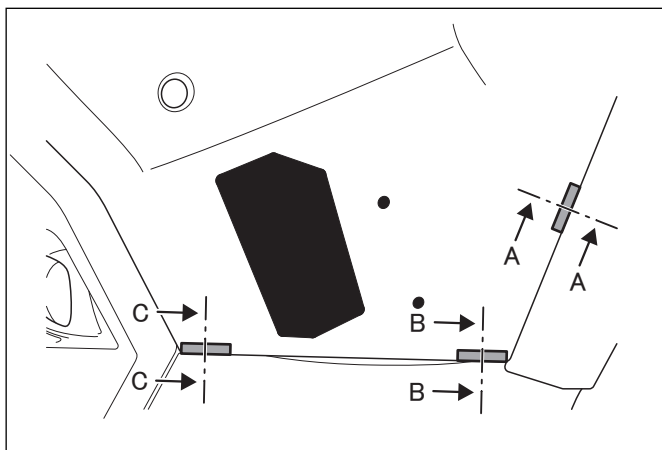
- (3) 型紙に記載されている $\phi 8.0$ の穴あけ位置(8カ所)の中心にキリなどで、印を付けます。
- (4) 穴開けで使用するドリル刃の先端から約 15 mm の位置にマスキングテープを巻き付けて、ストッパーを作ります。
($\phi 3.0$ 、 $\phi 6.0$ 、 $\phi 8.0$ の 3 本)
- (5) 型紙を確認しながら、 $\phi 8.0$ の穴位置 8カ所に $\phi 3.0 \rightarrow \phi 6.0 \rightarrow \phi 8.0$ の順に穴あけを行います。
- (6) 左図を参考に線に沿ってフロントバンパーをカットします。
- (7) 穴あけ後、やすり等で穴周囲のバリを除去します。



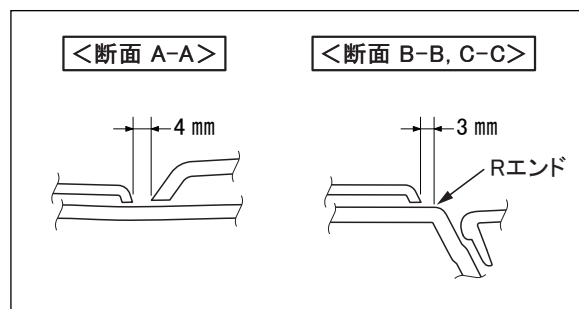
注意

穴あけ作業を行う際は、保護メガネを着用してください。

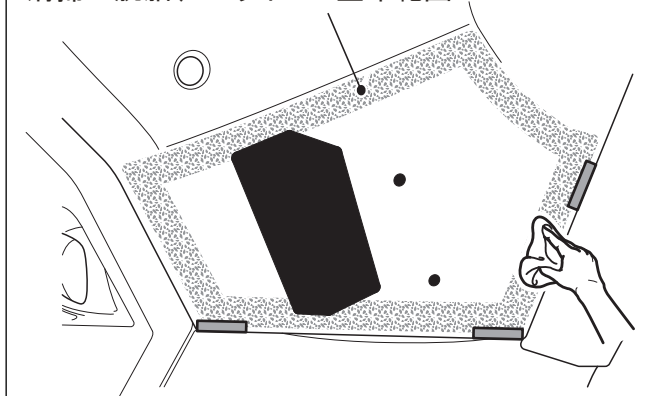
2. シグネチャーイルミ本体の仮付け



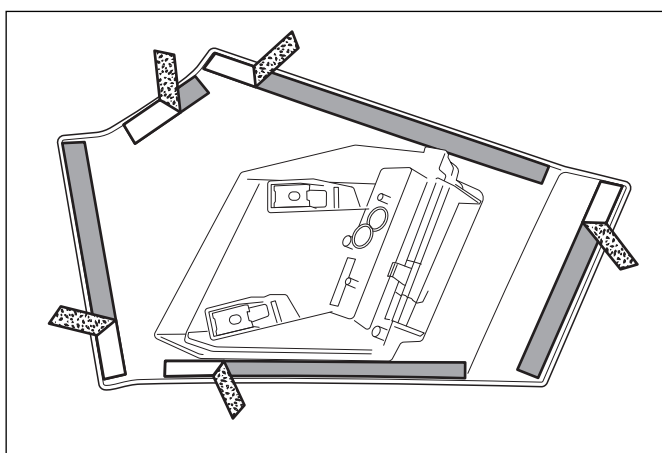
- (1) 左図を参考にフロントバンパーにマスキングテープを3箇所贴ります。



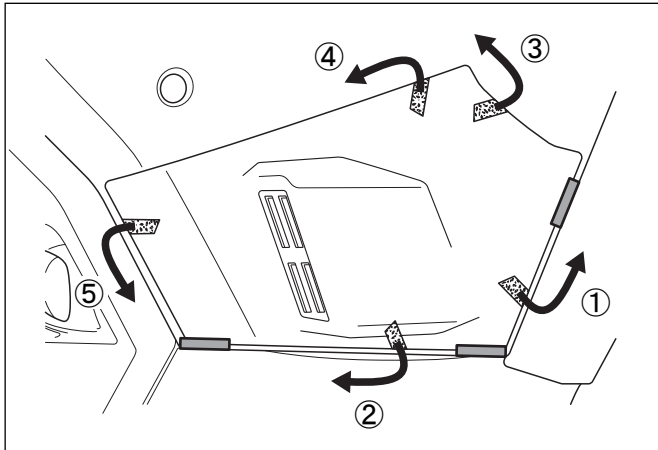
清掃・脱脂、プライマー塗布範囲



- (2) 左図参考に、色分けエリアをIPA（イソプロピレンアルコール）等で清掃・脱脂を行い、PAC プライマー（N-210NT）を塗布してください。



- (3) 左図を参考にシグネチャーイルミの両面テープ離型紙を30mm程度剥がし、剥がした離型紙をシグネチャーイルミ表面にマスキングテープで貼り付けます。



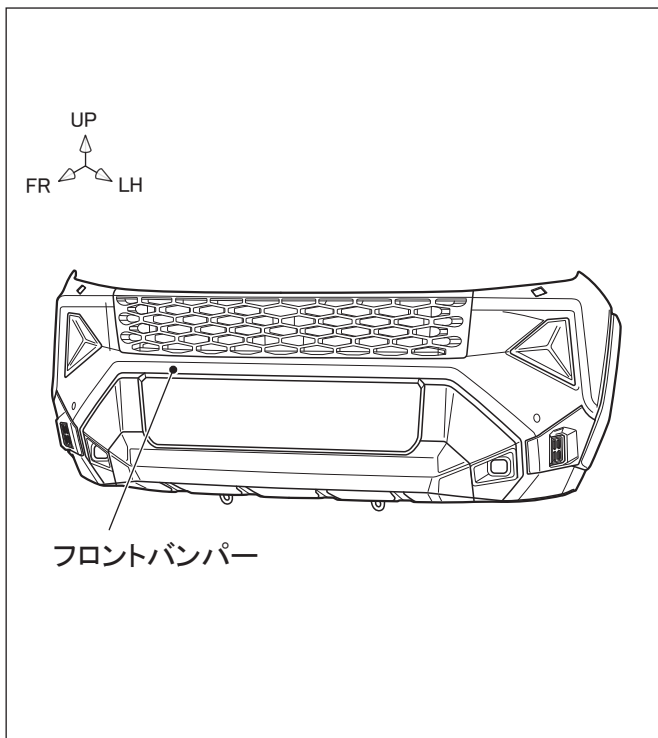
- (1) (1) で貼り付けたマスキングテープ位置に合わせてシグネチャーイルミをフロントバンパーに取付けます。
- (2) 右図の順番に離型紙を剥がし、シグネチャーイルミを仮付けします。



注意

両面テープの圧着をしないでください。
フロントバンパーとシグネチャーイルミの穴位置がずれていた場合に位置調整が出来なくなります。

3. 車両部品の取り外し



- (1) バッテリーのマイナス端子を外します。
- (2) フロントバンパーを車両修理書に従い取り外します。



注意

車両部品を取り外す際、裏側のコネクターを断線させないように注意してください。



注意

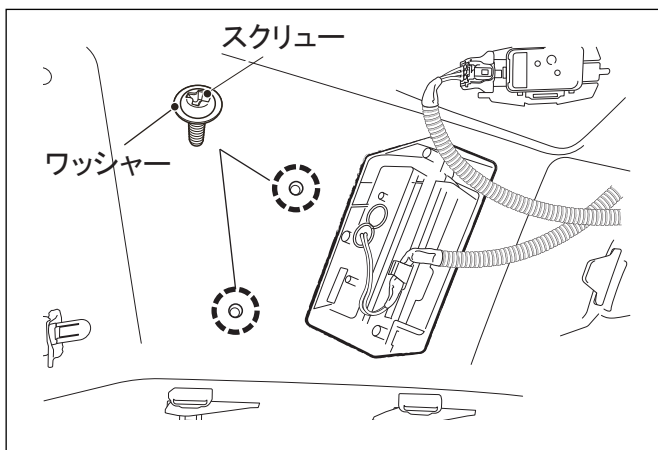
ヘッドランプウォッシャーのホースを取り外す際、ウォッシャー液が滴れるおそれがあります。ウエス等で拭き取ってください。



注意

取り外した車両部品、スクリュー、クリップは再利用しますので、無くさないように必ず保管してください。

4. シグネチャーイルミ本体の固定



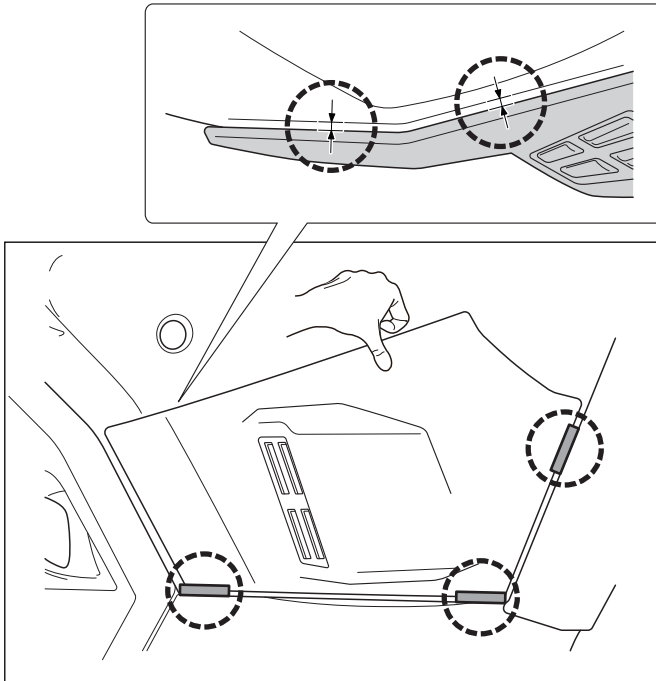
- (1) 取り外したフロントバンパー裏側から、シグネチャーイルミとフロントバンパーの2箇所の穴位置が合っていることを確認し、シグネチャーイルミをタッピングスクリュー・ワッシャーでフロントバンパーへ固定します。



注意

穴位置が合っていない場合は、穴位置が合うようにシグネチャーイルミの貼り付け位置を調整してください。

5. シグネチャーイルミ本体の圧着



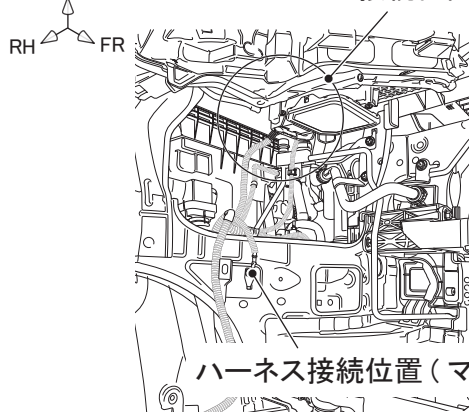
- (1) 車両と製品の間が一定になっているかを確認してください。
- (2) シグネチャーイルミの両面テープ部を 49N 以上の力で圧着してください。
- (3) 2. シグネチャーイルミ本体の仮付け (1) で貼ったマスキングテープを剥がします。

■ 取付作業

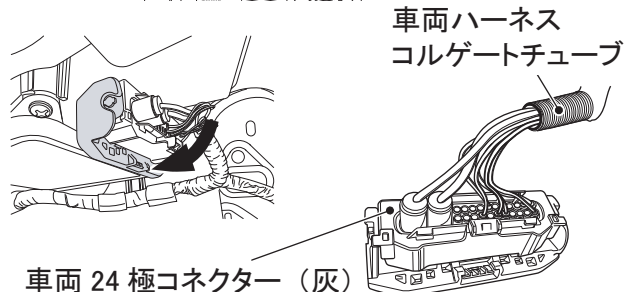
1. 車両コネクターの取り外し

〈車両前方右側〉バンパーを取り外した状態

ハーネス接続位置 (プラス)

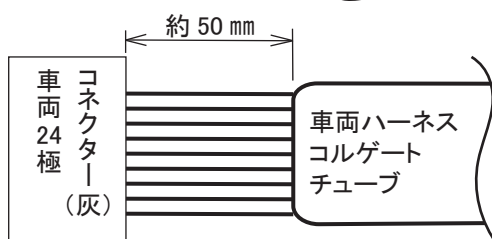


ハーネス接続位置 (マイナス)



車両ハーネス
コルゲートチューブ

車両 24 極コネクタ (灰)



- (1) 右側ヘッドランプ下の電源ハーネス配線位置を確認します。
- (2) 左図○部コネクタ (ヘッドランプ ECU) を固定しているリテーナーの爪を押して、リテーナーを下げてコネクタのロックを解除します。
- (3) コネクタを取り外します。
- (4) 取り外したコネクタからコルゲートチューブまでの長さを確認します。
- (5) コネクタからコルゲートチューブまでの長さが 50 mm より短い場合は、コルゲートチューブをカットします。



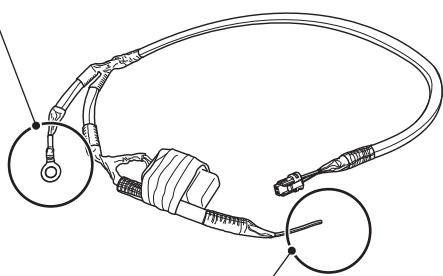
注意

コルゲートチューブをカットする際、配線を切らないように注意してください。

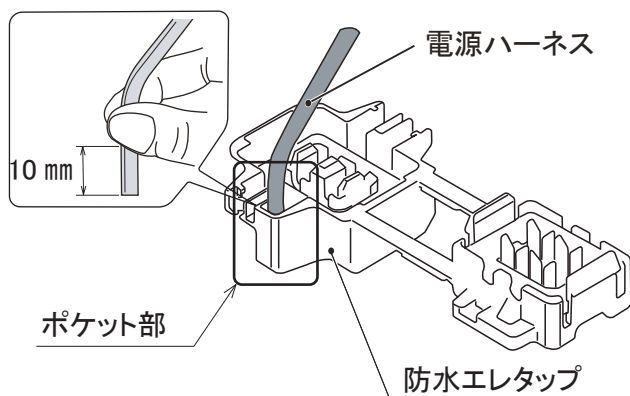
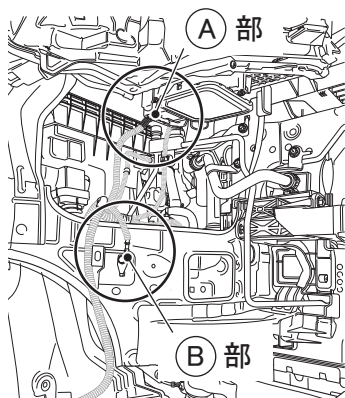
2. 電源ハーネス（赤色線）の接続

③電源ハーネス

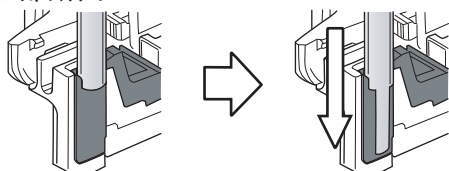
黒色線→車両六角ボルトを使用して
車両側 (B) 部へ接続



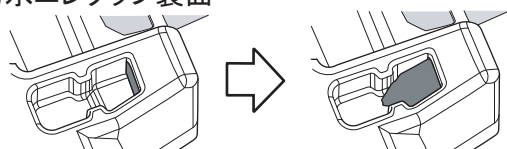
赤色線→防水エレタップを使用して
車両側 (A) 部へ接続



ポケット部断面



⑨防水エレタップ裏面



シーラントが浸み出します

- (1) 電源ハーネスの赤色の電線と丸型端子がついている黒色の電線の接続先を確認します。
- (2) 防水エレタップを取り出します。

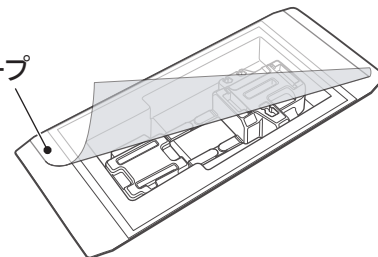


注意

防水エレタップ取り扱いの注意事項

- ・トップテープを剥がした状態で、放置しないでください。防水機能が損なわれる場合があります。

トップテープ



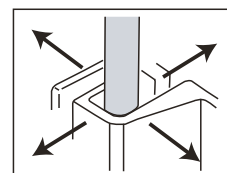
- ・コネクタの防水機構として、コネクタ嵌合部にシーラントを設けています。嵌合部に砂塵、異物などが入らないようにご注意ください。防水性が損なわれるおそれがあります。
- ・嵌合部に針金や先端が細い工具などを入れないようにしてください。コネクタが嵌合できなくなり、接触不具合のおそれがあります。
- ・シーラントおよびターミナルには触れないでください。
- ・一度ご使用になられたものは再度使用しないでください。又、修正が必要な際は、コネクタを車両ハーネスに付けたままテープ等で絶縁処理してください。

- (3) 左図を参考に電源ハーネスの赤色の電線を先端から約 10 mm の位置で持ちます。
- (4) 防水エレタップのポケット部に電源ハーネスを挿入します。

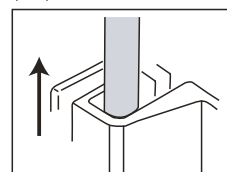


注意

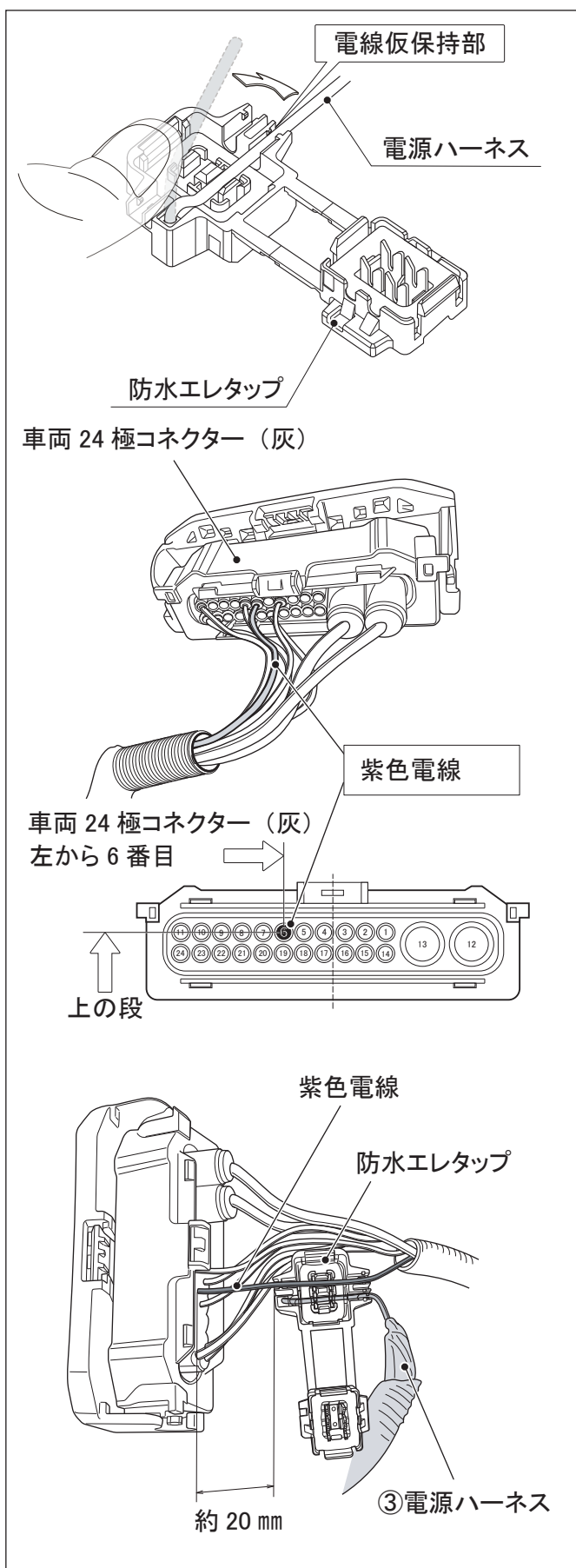
電線挿入後は下図のような行為は行わないでください。



電線を左右前後に動かさないでください



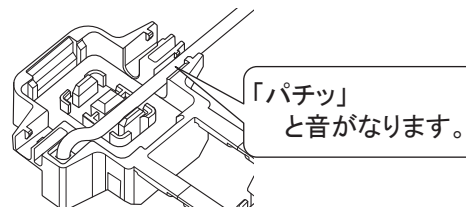
挿入した電線は抜かないでください



- (5) ポケットに挿入した電源ハーネスの電線が抜けないように、ポケット上部を押さえます。
- (6) 電源ハーネスを左図のように折り曲げて防水エレタップの電線仮保持部に嵌めてください。

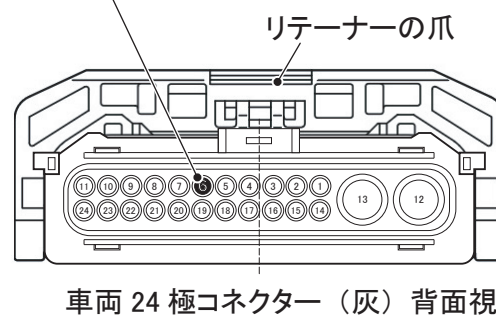
アドバイス

電線仮保持部へ電線が嵌め込まれると、「パチッ」とクリック音がなります。



- (7) 電源ハーネス (赤色線) を接続する、車両コネクタの紫色電線の位置を確認します。

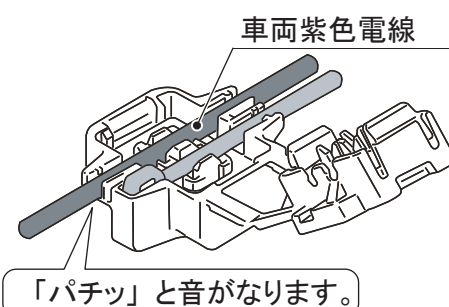
接続する車両紫色電線

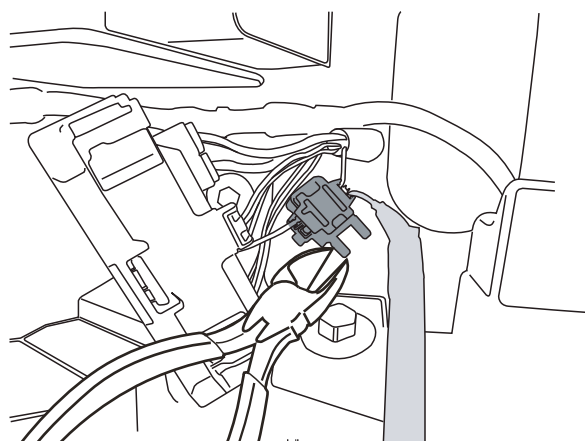
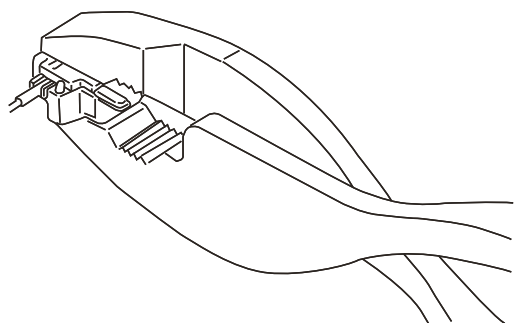
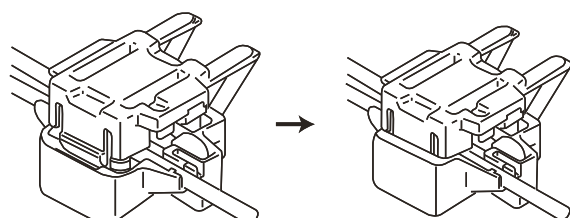
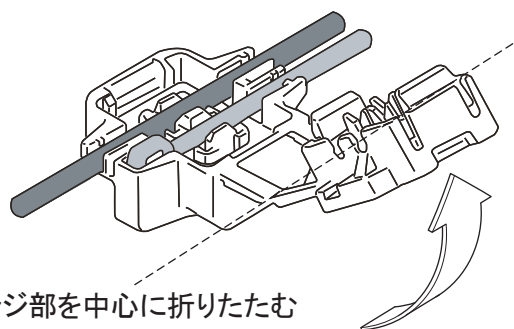


- (8) 紫色電線を防水エレタップの空いている電線仮保持部に押し込み、車両電線から防水エレタップが外れないようにします。
- (9) 仮保持した防水エレタップを、車両コネクタから、約 20 mm の位置に、合わせます。

アドバイス

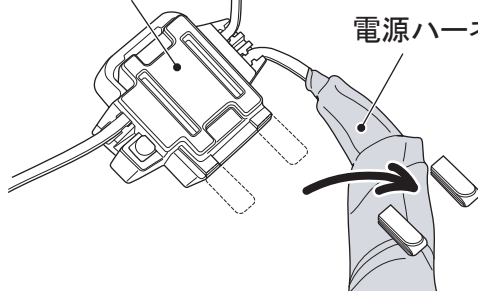
電線仮保持部へ電線が嵌め込まれると、「パチッ」とクリック音がなります。





防水エレタップ

電源ハーネス

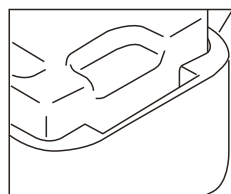


- (10) 防水エレタップが(9)で合わせた位置からズレないように、注意して、ヒンジ部を中心に防水エレタップを折りたたみます。

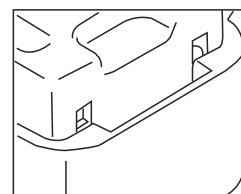
- (11) 電線が電線仮保持部から脱落していない事を確認し、はめ合わせた防水エレタップをプライヤーの広口で挟み、本止めします。



本止め後、ロック状態を確認してください。
穴が隠れている状態が、嵌合完了の状態です。



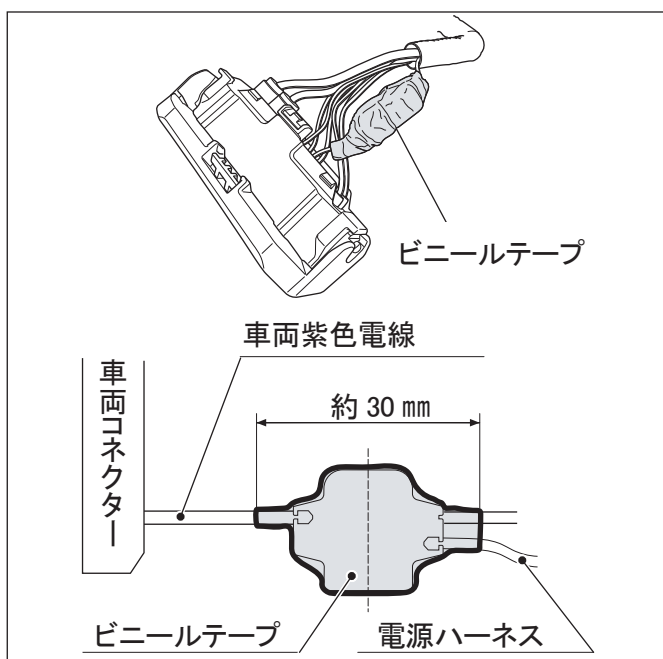
嵌合完了状態



嵌合未完了状態

未嵌合状態の場合は、プライヤーで挟み直してください。

- (12) 防水エレタップのヒンジ部分(2カ所)をニッパーで切断します。



(13) 防水エレットップを中心に約 30 mm の範囲にビニールテープを巻き付けます。

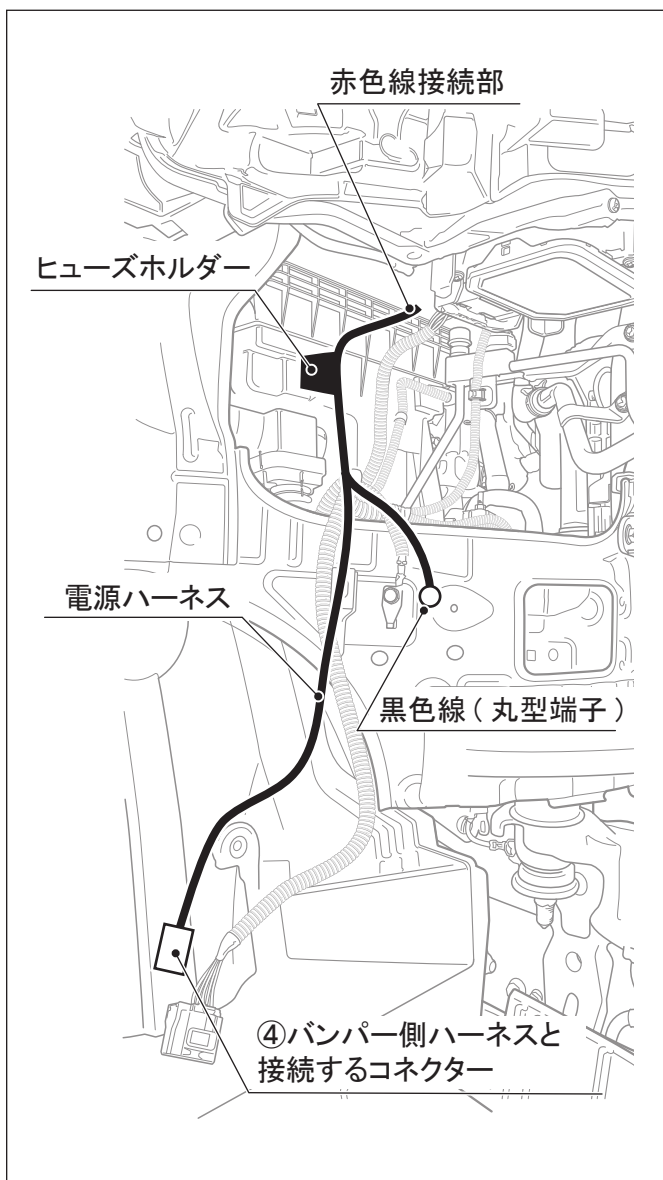
(14) 車両コネクタを復元します。



注意

車両コネクタを復元する際は、コネクタをロックするリテーナーを上げて、確実にロックされている事を確認してください。

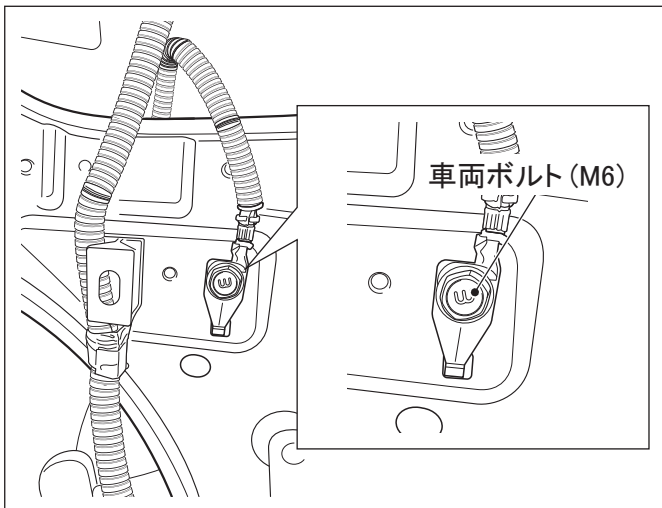
3.③電源ハーネスの接続・固定



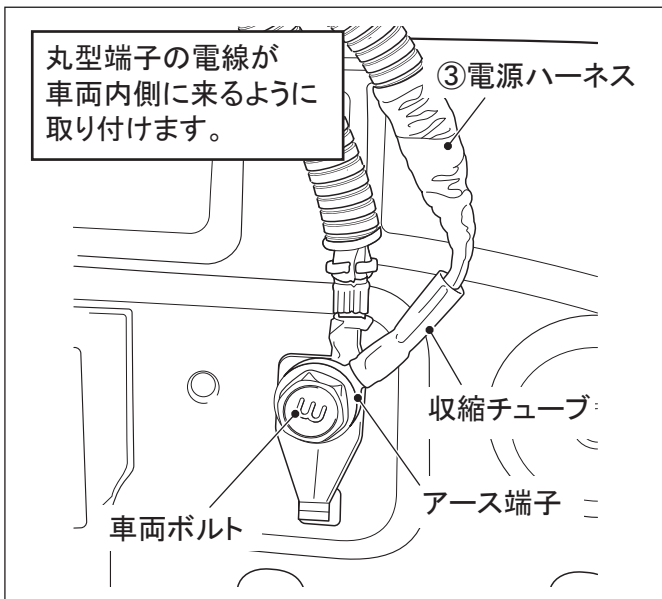
(1) 電源ハーネスを左図のように、配置します。

＜手順説明＞

・電源ハーネスを左図のように、2. で接続した赤色線 → ヒューズホルダーの固定 → 黒色線の順番で固定します。



- (2) 車両のアース端子を固定しているボルト (M6) を取り外します。



- (3) 電源ハーネスの黒色線の丸型端子を、車両から取り外したボルト (M6) を使用して、車両アース端子と共締めします。



注意

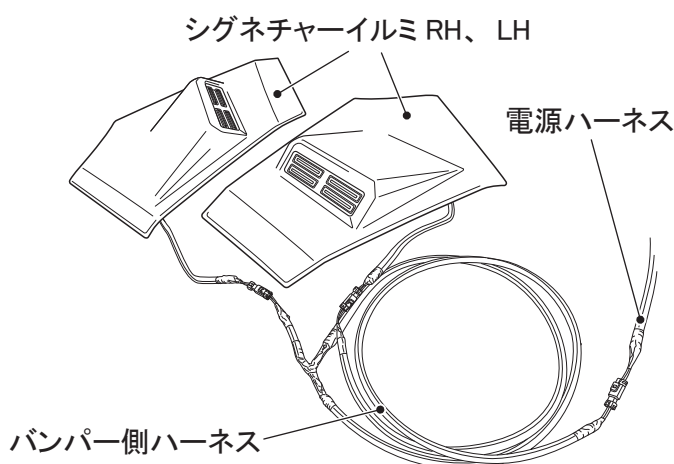
ボルトの締め付けは、車両修理書に従い、規定のトルクで行なってください。
締め付けトルク：10N・m



注意

丸型端子の収縮チューブが車両ボルトのフランジに噛み込まないように共締めを行ってください。

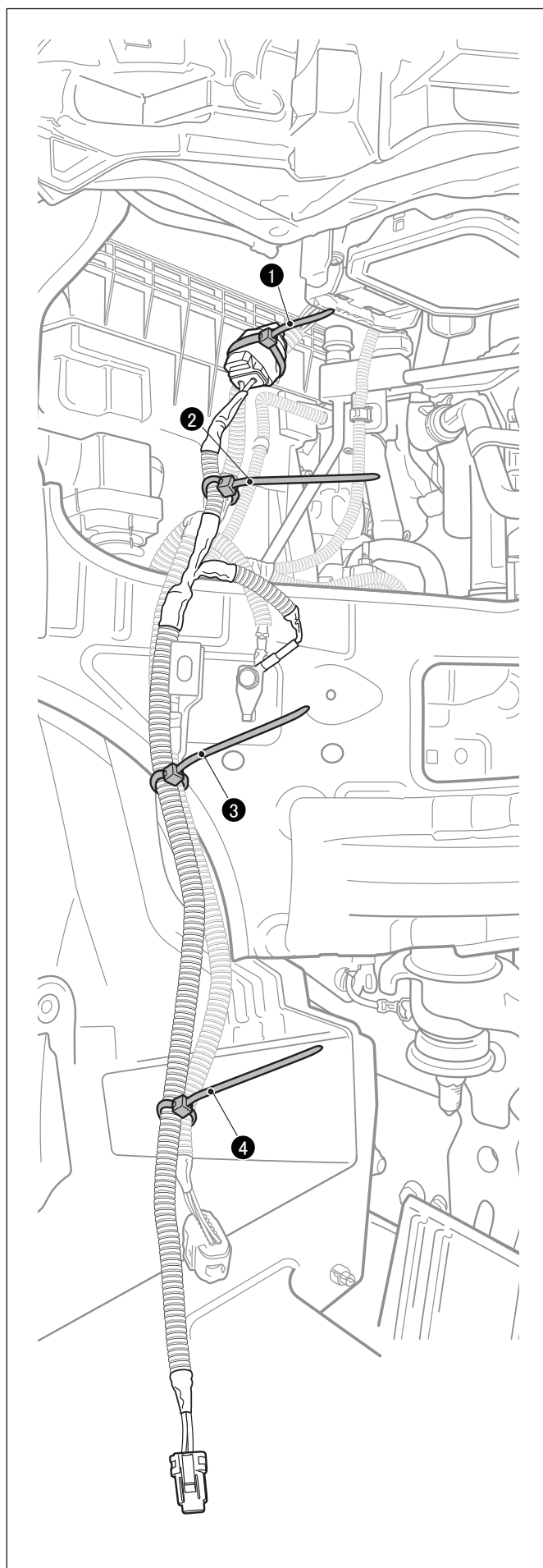
＜点灯確認＞ ③電源ハーネスが正しく接続されたことを、確認します。



- [1] 電源ハーネスとバンパー側ハーネスを 19 ページの回路図を参考に接続します。
- [2] バンパー側ハーネスと、シグネチャーイルミ RH、LH ハーネスを 19 ページの回路図を参考に接続します。
- [3] バッテリーのマイナス端子を接続します。
- [4] イグニッションを ON の状態にして、シグネチャーイルミ RH、LH が点灯することを確認します。
- [5] バッテリーのマイナス端子を外します。
- [6] シグネチャーイルミ RH、LH とバンパー側ハーネスを取り外します。

【点灯が確認できなかった場合】

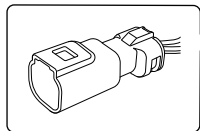
電源ハーネスの赤色線、黒色線が正しく接続されているか確認します。



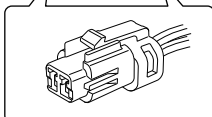
- (4) 左図を参考に、電源ハーネスのヒューズホルダーを結束バンドにて、車両ハーネスへ仮固定する。(結束位置①)
- (5) 左図を参考に、電源ハーネスのアース端子の分岐位置付近を結束バンドにて、車両ハーネスへ仮固定する。(結束位置②)
- (6) 左図を参考に、車両ハーネス端末付近のコルゲートチューブ部を結束バンドにて、車両ハーネスへ仮固定する。
結束の際は、車両ハーネスのコネクタよりも電源ハーネスのコネクタが、50 mm程度長くなるように固定してください。(結束位置④)
- (7) 左図を参考に、結束位置②と結束位置④の中間付近の位置を結束バンドにて、車両ハーネスへ仮固定する。
(結束位置③)
- (8) 結束位置③、④の間に電源ハーネスの余長を寄せて、電源ハーネスを車両ハーネスに沿うように調整します。
- (9) 電源ハーネスを固定している結束バンドを本締めします。
- (10) 結束バンドの余長をカットします。

4. バンパー側ハーネスの接続・固定

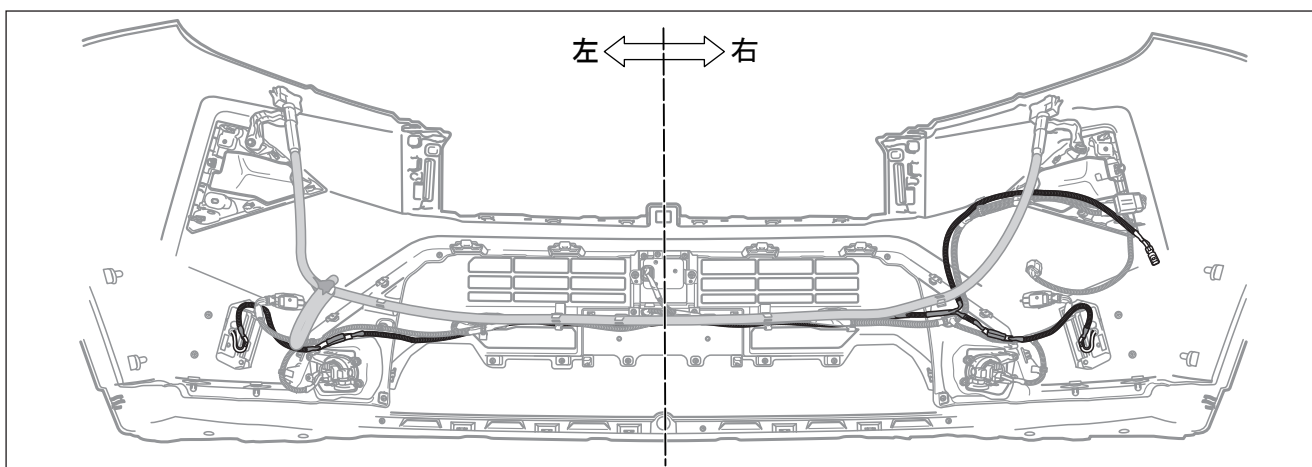
電源ハーネスと
接続するコネクタ



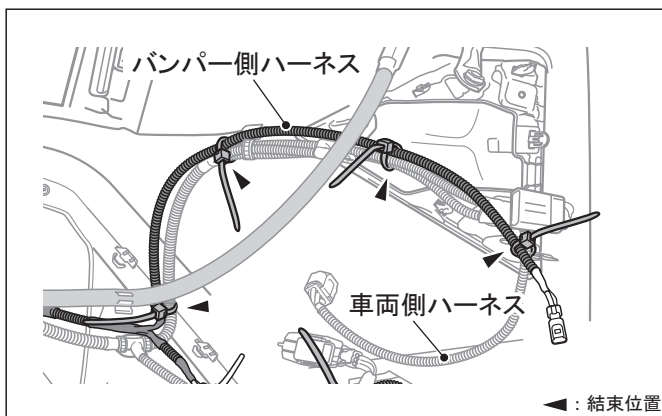
シグネチャーイルミと
接続するコネクタ



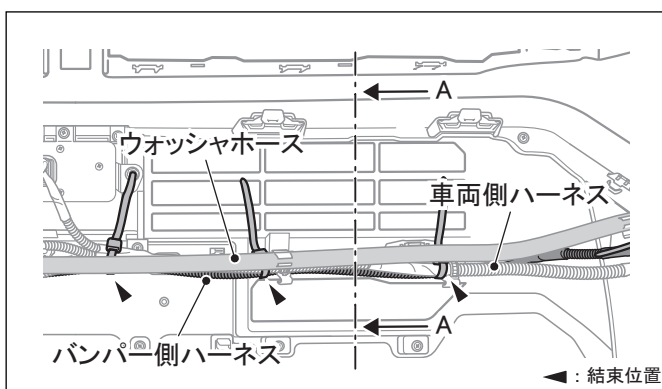
- (1) バンパー側ハーネスのコネクター形状を確認します。



- (2) 上図を参考に、コネクターの位置を間違えないように、バンパー側ハーネスを車両ハーネスに沿って配置します。

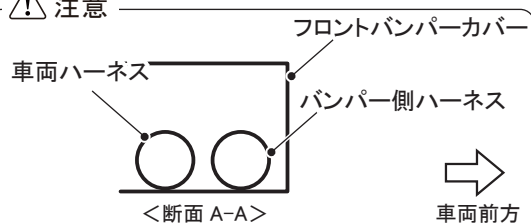


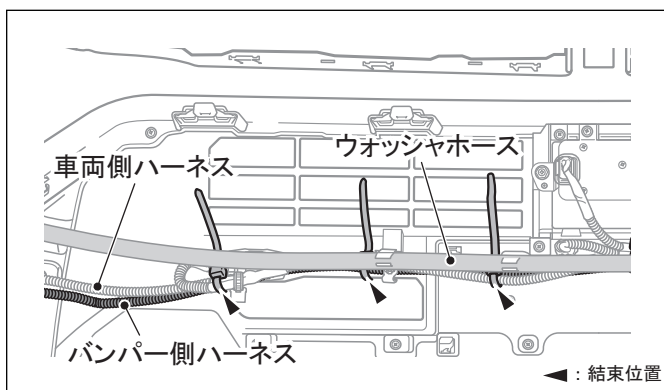
- (3) 左図を参考に、バンパー側ハーネスのコネクターの根元付近を結束バンドにて、車両ハーネスへ仮固定します。



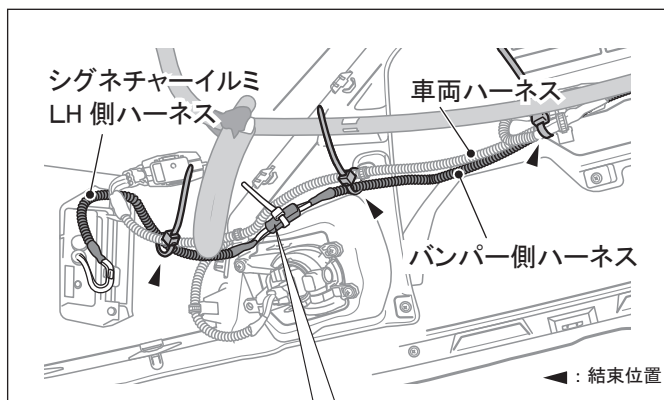
- (4) 左図を参考に、バンパー側ハーネスを結束バンドにて、車両側ハーネスへ仮固定します。その際、車両ハーネスに対して、バンパー側ハーネスを車両前方に配置するように仮固定します。

⚠ 注意



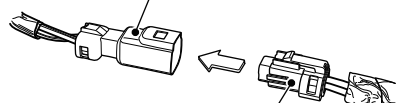


- (5) 左図を参考に、シグネチャーイルミ LH ハーネスを結束バンドにて、車両ハーネスへ仮固定します。

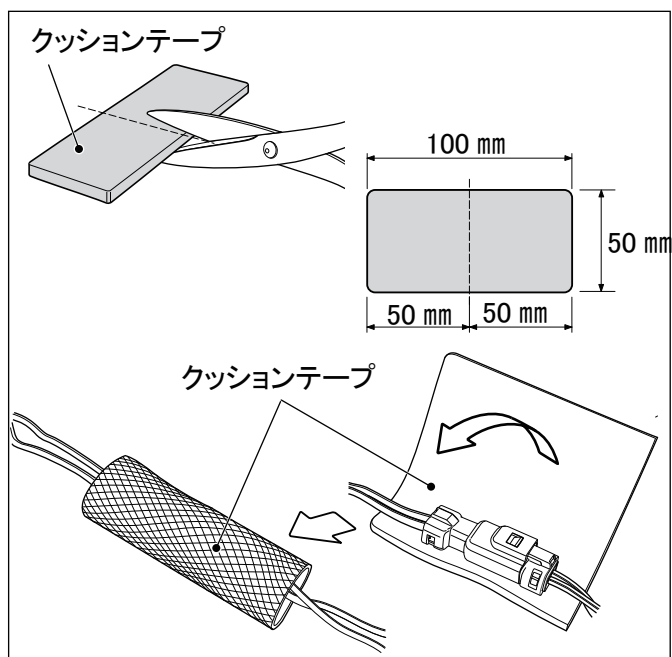


- (6) 左図を参考に、バンパー側ハーネスのコネクターとシグネチャーイルミ LH のコネクターを接続します。

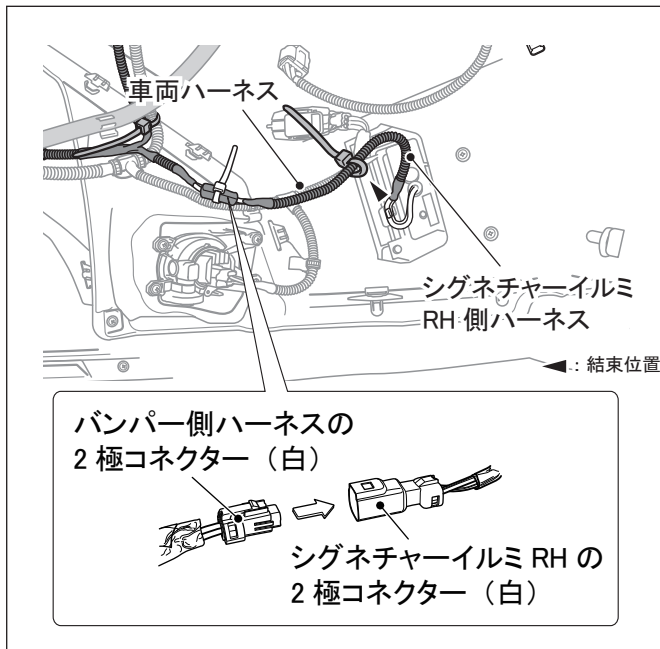
シグネチャーイルミ LH の 2 極コネクター (白)



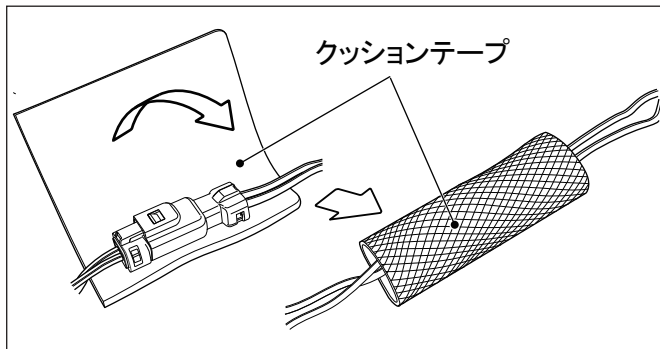
バンパー側ハーネスの 2 極コネクター (白)



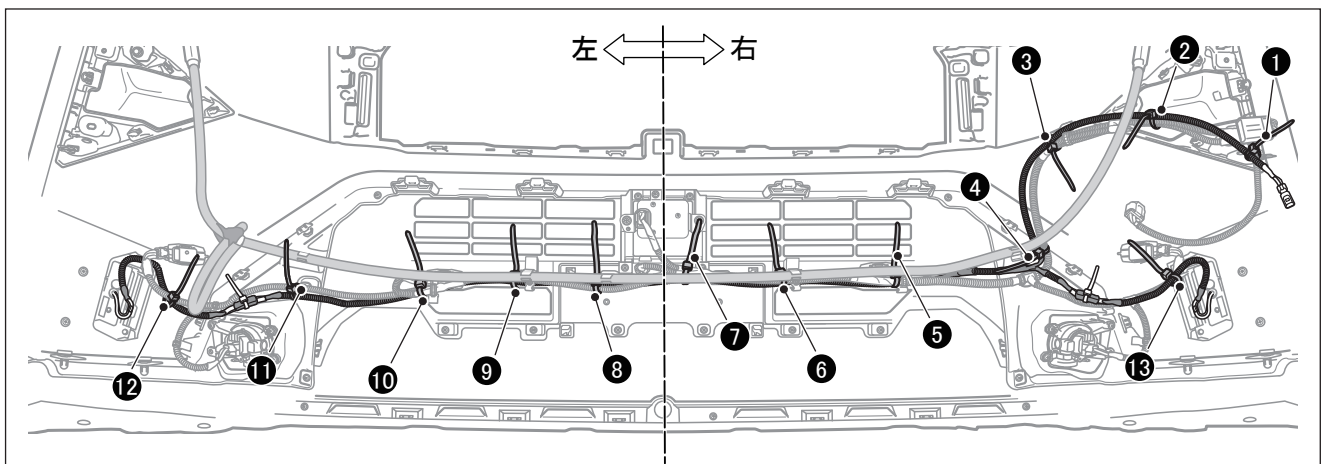
- (7) 左図を参考に、クッションテープを半分のサイズにカットします。
- (8) 左図を参考に、接続したコネクター部に、カットしたクッションテープを巻き付け保護します。



- (10) 左図を参考に、バンパー側ハーネスを結束バンドにて、車両ハーネスへ仮固定します。
- (11) 左図を参考に、シグネチャーイルミ RH 側ハーネスを結束バンドにて、車両ハーネスへ仮固定します。
- (12) バンパー側ハーネスのコネクターとシグネチャーイルミ RH のコネクターを接続します。

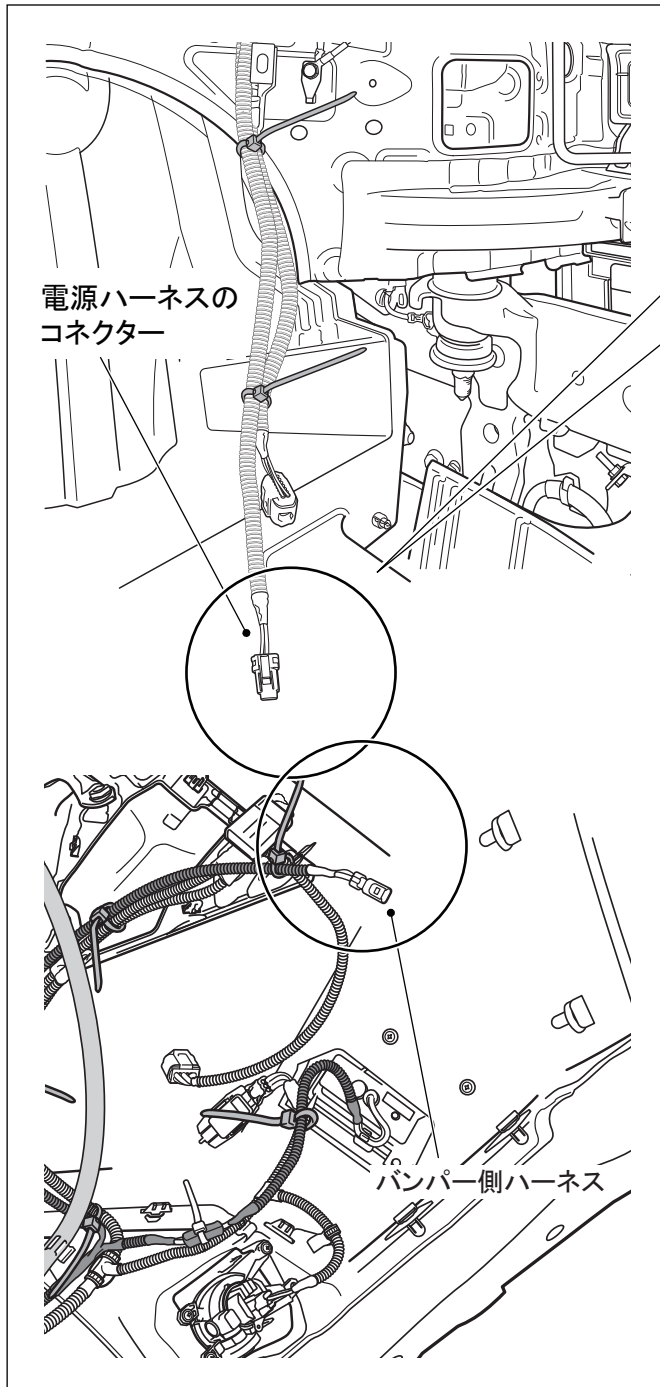


- (13) 接続したコネクター部に、カットしたクッションテープを巻付け保護します。



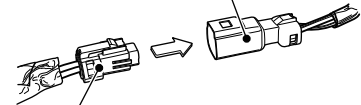
- (14) 結束位置③、④の間にバンパー側ハーネスの余長を寄せて、車両ハーネスに沿うように調整します。
- (15) 下記の順番で、バンパー側ハーネスを固定している結束バンドを本締めします。
 - [1] バンパー側ハーネスのコネクターと車両コネクターの位置を揃えて 結束位置①
 - [2] 結束位置② → ⑤ → ⑥ → ⑦ → ⑧ → ⑨ → ⑩ → ⑪
 - [3] 結束位置③ → ④
 - [4] シグネチャーイルミ LH ハーネス部 結束位置⑫
 - [5] シグネチャーイルミ RH ハーネス部 結束位置⑬
- (16) 結束バンドの余長をカットします。

5. 車両の復元と電源ハーネス、バンパー側ハーネスのコネクター接続



- (1) フロントバンパーを車両へ仮保持状態にし、電源ハーネスのコネクターと、バンパー側ハーネスのコネクターを接続します。

バンパー側ハーネスの 2 極コネクター (白)



電源ハーネスの 2 極コネクター (白)

- (2) 車両修理書に従い、フロントバンパーを復元します。

⚠ 注意

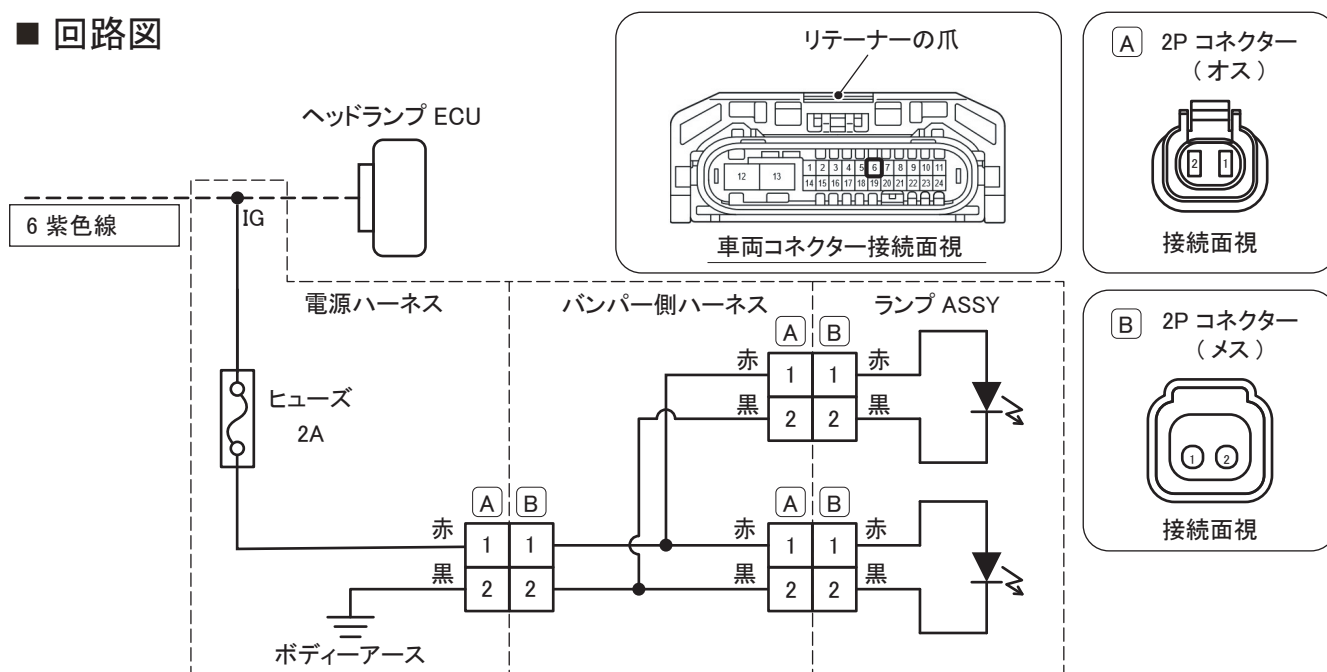
フロントバンパーを復元する際は、車両や本製品のハーネス類の挟み込みにご注意ください。

- (3) バッテリーのマイナス端子を接続します。
(4) イグニッションを ON の状態にしてランプの点灯確認を行います。

■ 取付完了後の点検・注意事項

1. 製品全周に渡り、ガタつき、剥がれ等、無いことを確認してください。
2. 車両及びシグネチャーイルミ廻りに傷が付いていないことを確認してください。
3. 本取り付けに伴い分解・脱着した部位により、再設定・調整が必要となる場合があります。
4. 各システムの設定・確認を行なってください。（車両修理書「バッテリーターミナル脱着時の設定 / 作業」を参照）

■ 回路図



株式会社トヨタカスタマイジング & ディベロップメント
 モデリスタ商品お問い合わせ窓口
 TEL : 050-3161-1000
<https://www.modellista.co.jp/>

脱脂作業要領書

本書ではエアロパーツ等を取付ける際の脱脂作業について記載してあります。
取付け前に必ずお読みいただき、正しい要領で脱脂作業を行ってください。

エアロパーツの取付け・脱脂作業の要領を
解説動画でご覧いただけます。
右のQRコードよりアクセスのうえ
ご確認ください。

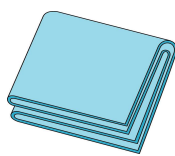


- ①エアロ取付準備・脱脂 (約3分)
- ②エアロ位置決め・取付・圧着 (約6分)
- ③デカール準備・水貼り・圧着 (約4分)
- 合計 約13分

取付け時の脱脂作業に必要な工具等



水拭き用バケツ



合成セーム皮



脱脂剤用
スプレーボトル



ゴム手袋



DRY 用
ウエス



WET 用
ウエス



イソプロピルアルコール(IPA)
※純度 100%推奨

脱脂作業上の注意事項

1. ホコリ・チリ等のない換気の良い作業場で作業を行ってください
2. 隣接する場所で、ワックスがけやポリッシュ作業等を行わないで下さい。
※飛散した油脂やワックス等の成分が車両に付着してしまいます。
3. 脱脂剤を取り扱いの際は、眼・皮膚に触れないように保護具を着用のこと。
4. 脱脂剤を取り扱いの際は、作業場に火気・熱源のないことを確認すること。
5. 脱脂剤を取り扱いの際は、蒸気を吸い込まないように作業場内の換気に注意のこと。

 注 意・・・注意事項を守らないと事故につながったり、ケガをしたり、車両を損傷する等のおそれがあることを記載しています。



アドバイス・・・スピーディーに確実に作業していただく上で、知っておいていただきたいことを記載しています。

★脱脂作業概要《重要》

◎【脱脂作業】とは、取付け面の表面に付着した油脂分を取り除き、両面テープの性能を十分に発揮させるための重要な下地処理です。

下地処理が不十分だと、両面テープの性能が著しく低下して、浮き・ハガレ脱落などの不具合を起こす場合があります。

大変に重要な作業となりますので確実に行ってください。

◎ 脱脂剤は、取付け面に付着した油脂分を浮かび上がらせて、ウエスへの吸着を促す溶剤です。

脱脂剤で取付け面を拭いただけでは、十分な脱脂は行えません。

《脱脂作業前に》以降の作業要領を十分に理解したうえで作業を行ってください。

■ 脱脂作業前に

- 取付け面のホコリ・チリ等の汚れを十分な流水で洗い流す。
汚れのひどい場合は、洗浄剤を使用して汚れを落とし、洗浄剤を十分に洗い流すこと。
- 取付け面にコーティング等を施工されている場合は、除去剤・コンパウンド等を使用し除去してください。除去後、十分に水洗いを行ってください。
※コーティング剤が残っていると両面テープはハガれます。
- 水洗い後は、取付け面に付いた水滴を完全にふき取ってください。

■ 脱脂作業要領

- 取付け面の洗浄を行い、固く絞った合成セーム革等を使用し拭き上げて水滴をしっかりと取り除く。



水拭き用バケツ



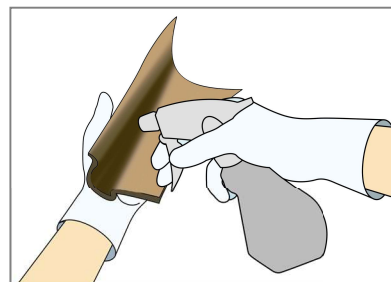
合成セーム皮

- スプレーボトルに入れた脱脂剤をWET用ウエスに吹きつける。



WET 用ウエス

※ ウエスは清潔なウエスを使用して、拭き上げ時にクズなどが出ない素材を選んでください。



WET 用ウエスにスプレーボトルを 5 cm ほど離して、初回は 10 回程度スプレーをして、ウエスが湿っている状態で取付け面を拭いてください。
以降は WET ウエス表面が乾く前に追加で 5 回程度スプレーし、常に湿った状態を保つようにしてください。

● 取付け面の脱脂作業を行う

①【WET 拭き】

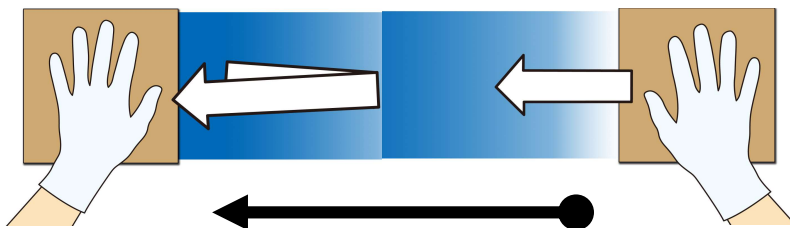
脱脂剤を含ませたウエスで

1 往復で拭き油脂分を浮き上がらせる

②【DRY 拭き】

DRY 拭きウエスで一方向に

拭き上げ油脂分を取り除く



1 ブロック 60 cm 程度として両手に WET と DRY のウエスを交互に持ち

WET⇒DRY の順に拭き上げて脱脂する。

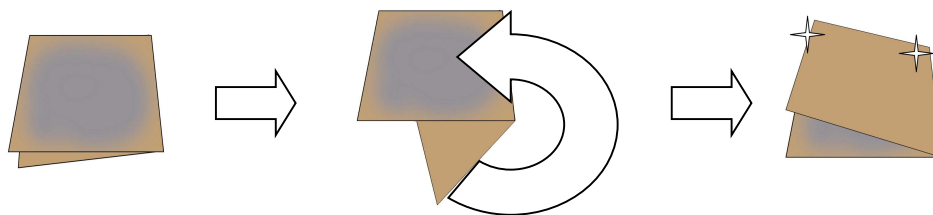
範囲が広い場合は 1 ブロック 毎を数回に分けて行い、仕上げに面を通して拭き上げる



WET 拭きのあと脱脂剤が乾かないうちに DRY 拭きで一気に拭き上げを行ってください。

(上図のように両手にウエスを持ち作業を行うと素早く作業できます。)

DRY 拭き作業後に拭き上げた面に、拭き跡が残っている場合は油脂分が残っていますので、再度 WET・DRY 拭きを行ってください。



WET/DRY のウエス共に 3～5 ブロック 毎にウエス表面を折り返しウエスの拭き取り面が常に清潔な状態で作業を行ってください。



汚れたままのウエスを使い続けると、ウエスに拭き取った油脂分が取付け面に再び付着して、エアロパーツの浮き・ハガレの原因となります。

脱脂作業がしっかり行われている取付け面は、DRY 拭きを行った際にウエスへの抵抗が増して、拭き上げが重くなります。作業前と作業後のウエスの抵抗感を目安に、脱脂を行ってください。

脱脂後の取付け面には、指などを触れないように作業を行ってください。

脱脂後は長時間放置せず、すぐに作業を行ってください。

チリ・ホコリ等が付着しないように、十分注意してください。

パーツの取り付け方法は、各パーツの取扱説明書ならびに取付要領書にしたがって行ってください。